

## 目次 Contents

JA役員、各組織 新年の挨拶	2
代表理事組合長 新年の挨拶	3
中央会会長 新年の挨拶	4
酪農対策協議会長 新年の挨拶	5
青年部・女性部長 新年の挨拶	6
乳牛改良同志会会長 新年の挨拶	7
試験場通信	8
営農対策情報	9
東野ひでき北海道後援会・JAカレッジ募集	10
別海高校活動報告	11
税務署からのお知らせ・乳質乳価	12
関連会社より新年のご挨拶	13
十二支・巳年の豆知識	14

令和七年  
巳年



# 謹んで新春の お慶びと申し上げます

佳き年を迎え皆様のご健勝を  
お慶び申し上げます  
本年もよろしくお願ひ申し上げます

令和七年元旦



## 中春別農業協同組合

会長	理事	代表理事	副組合長	専務理事	常務理事	理事	理事	理事	代表	監事	監事	監事
西川	望月	原内	大山	真部	伊藤	山崎	片野	上田	高橋	兼松	森	他職員一同
寛	英彦	修	武永	朝志	一吉	浩二	大介	泰治	真悟	真武	忠義	

中春別酪農対策協議会会長

山崎 浩二 外会員一同

中春別農協青年部部长

柿本 竜矢 外部員一同

中春別農協女性部部长

南澤 順子 外部員一同

中春別農協良質生乳生産  
推進委員会委員長

伊藤 一吉 外会員一同

中春別農協良質粗飼料  
生産利用対策委員会委員長

原内 修 外会員一同

中春別地区河川流域環境保全  
推進委員会委員長

伊藤 一吉 外会員一同

中春別乳牛改良同志会会長

寺澤 佳吾 外会員一同

中春別乳牛検定組合会長

望月 英彦 外組合員一同

中春別農協農業後継者  
対策協議会会長

原内 修 外会員一同

中春別農協年金友の会会長

紫藤 正幸 外会員一同



新年のごあいさつ

中春別農業協同組合 代表理事組合長

望月英彦

組合員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

昨年度は、能登半島地震に始まり、1年の幕上げといたしました。大変な年の始まりでありました。1日も早い復興をお祈りいたします。粗飼料収穫状況については、天候等に恵まれ作業も順調に進み、良質粗飼料が収穫できたと思っております。前半は乳牛価格等もまずまずでスタートいたしました。夏以降は初生トク・初妊牛等は下落暴落のままクミカンの精算時期を向かえご苦労された事と思いません。

さて、昨年度は当農協の合併50周年の年でもあり、10月29日記念式典を執り行わせていただきました。組合員を始め来賓の方々にご出席いただきました事、感謝申し上げます。また、記念講演にホク

レンアンバサダー森崎博之氏を迎え「生きることは食べること」と題し、講演いただきました。50年を振り返りますと、昭和49年7月1日2JAの合併より、発足当時は組合員数360戸・生乳生産量32,713tでありましたが、

その後、新酪農村事業により地区内外への移転で大規模化が進み、移転跡地の有効利用を考え農地集団化により現在の姿に変わっております。また、避けて通れないのは、昭和58年肉牛の暴落による農協経営再建整備に指定された事です。その中で組合員・役職員の英知の結晶から、5ヶ年の再建計画を1年早く終了して今のJAがあります。平成2年には長期ビジョン推進委員会の元、10年で生乳生産量10万トン・総生産額100億円を目標として、スローガン「10・10・100運動」

を展開、平成13年に目標達成しております。50周年は通過点であり、更なる前進を目指し組合員と共に歩んでいきたいと思っております。現在、第13次中期経営計画策定にあたり、社会変革の中、常にチャレンジ精神の元、進んで行くJA組織でありたいと思っております。まだまだ物価上昇の中、厳しい酪農情勢は続きますが、「雨のあがらない事は無い」の言葉のとおり1日も早い酪農経済の回復を願っております。今、世界的には食糧不足が叫ばれ、国内においては働き手不足等で今後の国内食糧の安定供給には大きな不安があります。その中で当地区は、土地基盤に恵まれ自給粗飼料の確保が可能な事から、将来に向かって一番期待できる場所であります。国民消費者に対して安定供給の必要性を声大にして発信し、再生産可能な価

格形成への理解に努めて参ります。

昨年度、事務所内に念願のエアコンを設置させていただきました。また、本年4月より当JAも週休2日制を実施する事といたしますのでご理解とご協力をお願いします。

最後に、今年の参議院議員選挙において、全国農政連から北海道出身の東野ひでき氏が立候補予定であります。全国の代表・北海道農民の代表として1人でも多くの方々に知っていただき協力をお願いいたします。

本年も役員一同お役に立てる様、一層の努力をもって負託にお応えしてまいりますのでよろしくお願いたします。

本年は皆様良い年である事を願います。

い新年の挨拶いたします。



# 令和7年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会 代表理事会長

樽井 功

新年あけましておめでとうございます。  
組合員の皆様におかれましては、

日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも早く進んでおりました。しかしながら、夏場は猛暑・豪雨による記録的な高温多湿の影響を受け、各作物等の収量および品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、国際紛争や急激な円安の進行による飼

料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、現状に即した基本理念の見直しと、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」等の実現が盛り込まれました。政府は、初動5年間で農業構造転換集中対策期間と位置づけ、施策を集中的に実行するとともに、今年3月に食料・農業・農村基本計画を策定するべく引き続き検討を進めております。

JAGグループ北海道としては、食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立のために、農地の確保および適正利用の強化、食料・自給飼料等の安定生産・供給

と環境負荷軽減の両立に取り組みながら、それを後押しする力強い政策支援を求めていくことが重要と考えております。

また、昨年は第31回JAG北海道大会が開催され、「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」、「JAの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立」、「アグリアクシオン北海道の推進による農業・食・JAへの理解醸成」の3つの議案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合員・JA・連合会が一丸となつて、生産現場の行動変容と組合員の意思結集による農政運動、JAの経営管理の高度化やデジタル化の推進による業務効率化・生産性向上に取り組んでいかなければなりません。

さらに、消費者の皆様には、JAGグループ北海道統一の情報発信

のフレーズである「アグリアクシオン北海道」を浸透させるとともに、効果的な情報発信により、今まで以上に農業・食・JAに対する理解を深めていただき、JAGグループが提唱する「国産産」の認知を広げてまいりましょう。

結びになります。本年は巳年です。巳（へび）は冬眠から目覚め地上に這い出すことから、冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれる」という意味があるとされ、転じて、巳年は力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北海道農業の飛躍の起首となること、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



# 新年のご挨拶2025

中春別酪農対策協議会 会長 山崎 浩二

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。また、日頃より当会の活動に對しまして多大なるご理解とご協力をいただいたことに心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年の猛暑の影響を強く引きずった年だったように思います。乳牛の繁殖の遅延はもとよりアルコール不安定乳の改善がままならない農家も散見されました。その反省から農協の補助も活用しつつ暑熱対策の設備投資が活発に行われました。国内情勢に目を向けますと外国人観光客など人の動きはだいぶ活発になってきておりますが、その恩恵は一部地域に限られており国内全体の景気を押し上げるところまでは至っておりません。海外を

見ますと、一昨年から始まったロシアとウクライナの戦争は欧米や北朝鮮が各々の思惑をもって支援しておりいまだ終息の道が見えません。この不安定な世界情勢の影響からか円安の進行や海上運賃の高止まりなど国際社会に大きな影響を落としています。

これらの問題は酪農経営にも大きく影響しており、肥料、飼料、燃料をはじめ生産資材の高騰は大幅に生産費上昇を招き、コロナ禍に下落した個体価格も依然低迷が続いております。

そのような状況下、道酪対は過去3年に渡る減産計画から脱却し1%の増産計画としました。これは本道生産者のもとより全国の生産者と乳業会社も協調して実施した脱脂粉乳在庫削減対策の効果の表れと、これ以上の生産基盤の毀

損を避けるためであります。また、次年度の生産目標数量はインアウト数量を外枠としつつ403.8万tと設定されさらなる増産へと舵を切りました。

こうした中で当会といたしましては北海道農政部との意見交換を1回、国会議員及び農水省への中央要請を3回実施しました。道農政部とは有害鳥獣駆除や草地造成事業について、中央要請では改正畜安法の検証や状況に即した補給金算定の在り方などを要請してまいりました。限られた時間の中ではありましたが当地区の抱える課題を理解していただけたと感じています。

最後になりましたが依然として厳しい状況が続いておりますが、今年こそ良い方向に向くと信じています。





## 消費拡大運動を通して

中春別農協青年部 部長 柿本 竜矢

新年あけましておめでとうござい  
ます。当青年部活動に対しまして組合員  
皆様をはじめ、農協や関係機関の皆  
様におかれましては、日頃よりご理  
解とご協力を賜り厚くお礼申し上げ  
ます。

昨年を振り返りますと中春別農協  
青年部創立50周年を迎えることが出  
来、これまで青年部を創り上げてき  
た先輩方、農協の方、地域の方に感  
謝を申し上げます。

昨年の気候につきましては、6月  
中旬から7月上旬にかけて好天に恵  
まれ、良質な粗飼料を収穫すること  
が出来ました。しかし、酪農情勢は  
飼料、肥料、燃料などの様々な経費  
の高騰は依然として変わらず、また  
牛乳・乳製品の需要につきましても  
乳価の引き上げに伴い、店頭価格の  
値上げもあり需要の落ち込みがみら  
れる苦しい一年となりました。

そんな中、青年部では2023年  
秋から始めた、私たちの生産物であ  
る牛乳、牛肉を使ったノースキッチ  
ンさんとのコラボカレーの販売を主  
軸に消費拡大運動に取り組んで参り  
ました。

コラボカレーは、春の店舗感  
謝祭や農協夏祭り、MILKLAND  
HOKKAIDO→TOKYO、別海町  
産業祭、Aコープ秋の収穫祭など  
様々なイベントで出店させていただ  
きました。

農協行事での出店では、地域の  
方や農協職員の方を中心に購入  
していただき完売することも多  
く、自分たちの生産物を食べても  
らえるという喜びを改めて感じ  
ることが出来ました。その他に

東京自由が丘にあるMILKLAND  
HOKKAIDO→TOKYOや別海町  
産業祭でも出店をしました。初めて  
の地でのコラボカレーの販売はお客  
様から好評をいただくも販売個数が  
思ったよりも伸びず盛況というには  
ほど遠く、飲食店の大変さ、物を売  
る大変さを痛感しました。

コラボカレー販売にあたっては役  
員を中心に若手部員と協力し精神的  
に行いました。最初は不慣れな点が  
ありましたが、イベントを重ねるご  
とに要領を掴み、接客や販売もス  
ムーズに出来る様になりました。ま  
た、地域の方、農協職員の方など多  
くの方にコラボカレーを食べていた  
だき、「おいしい」と好評をいただ  
きました。コラボカレーはイベント  
での販売の他に中元やお歳暮ギフ  
トでも取り扱い、販売個数もテイク  
アウトカレーと冷凍カレーを合わせ  
て1,200食を超えることが出来  
ました。これも組合員皆様をはじめ  
農協の皆様のご協力、ご支援があっ  
たからだと感じております。

今年の青年部活動につきましては、  
引き続き消費拡大運動としてコラボ  
カレーを販売していきたいと考えて  
おります。今後の課題としてしまし  
ては物価高の影響によるコスト上昇をど  
う抑えていくか、販売経路をどのよ  
うに増やしていくかを模索し、より  
多くの方に私たちの生産物である牛  
乳、牛肉を食べていただくように  
精進していきたいと思えます。  
今年も青年部一同、力を合わせて  
各活動に取り組んで参りますので皆  
様方におかれましては今後ともご指  
導の程お願い申し上げます。新年の挨拶  
と代えさせていただきます。



## 新年あいさつ

中春別農協女性部 部長 南澤 順子

明けましておめでとうござい  
ます。ご家族揃いで輝かしい新年をお  
迎えることと謹んでお慶び申し上げ  
ます。日頃より女性部活動に対しま  
してご理解、ご協力くださいまして  
心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、1  
月1日能登半島沖地震、2日羽田空  
港で飛行機炎上と大変な災害や事故  
から始まりました。9月には能登豪  
雨災害もあり、被災されました皆  
様に心よりお見舞い申し上げます。

一方で、パリオリンピックや大谷  
翔平選手の活躍など日本のみんなを  
元気にしてくれるニュースもありま  
した。

さて、中春別はといいますがと未  
来牧場や熊や野犬の被害があり、大切  
な牛が傷付けられ命を失う悲しい出  
来事がありました。それに伴い共進  
会や生活クラブとの交流会が中止と  
なりました。しかし、8月の農協祭  
りや秋の収穫祭ではミルク豚汁を配  
り、趣味の会で作ったクッキーは  
あつという間に売り切れました。他  
にも花壇整備、寄せ植え講習、デ  
コデイフューザー作り、新年交礼会  
青年部と合同でお中元・お歳暮の発  
送作業などを行いました。また、コ  
ロナウイルスが落ち着いてきたこと  
から3泊4日の研修旅行で和歌山県  
の白浜に行きまして参りました。フル  
ーツパーラー、みかん狩り、梅干し工  
場見学、アドベンチャーワールドで  
は期待以上にかわいいパンダの姿を

観ることができました。部員10名と  
事務局で少ない人数ではありませんた  
が、笑いの絶えない楽しい旅行がで  
きた事を嬉しく思います。  
本日ここに、女性部員皆様の常日  
頃のご協力により、中春別農協女性  
部50周年を迎えることができました  
ことを心より厚くお礼申し上げます。  
この部は部員が協力して部員相互  
の教養と親睦を深め農村女性の社会  
的経済的地位の向上をはかり合わせ  
て農業協同組合運動を推進すること  
を目的として発足しました。  
私たちは、見たい！知りたい！学  
びたい！の好奇心を大切に農家の女  
性・地域の女性が集まって助け合  
い・知恵を出し合い活動してきま  
した。

今日まで女性部活動を続けて、50  
周年記念式典を挙げてきましたこと  
は、ひとえに部員の皆様のご努力と  
ご理解ご協力の賜と深く感謝申し上  
げます。

また、今日まで何かとご指導、ご  
支援を賜って参りました各関係機関  
の皆様へ感謝申し上げます。

今月は女性部50周年式典が控えて  
おり節目の年となります。女性部一  
同、力を合わせて活動に取り組んで  
参りますので農協を始め各関係機関  
の皆様にはご指導、ご鞭撻を賜りま  
すようお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸をお祈り申  
し上げ、新年のご挨拶と致します。



# 情勢に左右されない安定した酪農経営を目指して

中春別乳牛改良同志会 会長 寺澤佳吾

2025年、新年を迎えるにあたり日頃より格段のご理解、ご協力、ご指導を賜りました皆様へ謹んでお慶び申し上げます。

また、当同志会事業推進におきましては、農協はじめ、各関係機関の皆様にも多大なるご協力をいただき、役員、会員一同、心より感謝申し上げます。

昨年度も我々酪農家を取り巻く情勢は、景気の低迷により個体販売価格の下落、それに伴い子牛の値下がり、更には配合飼料などの生産資材の高止まりと酪農経営は依然厳しい状況となっております。そうした中、我々同志会は、日々変化していく情勢でも安定した酪農経営を図るためホルスタインの

改良技術、飼養管理技術などのさらなる研鑽と探求を目的に精力的に活動して参りました。

こうした情勢下、令和6年度の事業と致しましては、次世代を担う青年部の協力のもと「スリック遺伝子保有の種雄牛」についての講習会を開催いたしました。また、乳牛改良等の更なる知識、技術の研鑽を目的とし「酪農視察研修」を実施致しました。

更に組合員や地域の皆様にもシヨウや乳牛改良に触れ興味を持って頂けるよう組合日より紙面上で年2回の「ホルスタイン写真コンテスト」、特別企画「子供絵画コンテスト」を開催し、好評を頂きました。

各シヨウにおいては根室ブラック&ホワイトシヨウ、北海道ブラック&ホワイトシヨウ、根室ホルスタイン共進会、2024北海道乳牛改良インターフェア

2024北海道インターフェアへ出品致しました。2024北海道ホルスタインショナルシヨウでは10頭出品し、うち1頭が1等4席を獲得し、6頭が入賞するという成績を残しました。

日頃の乳牛改良の成果と致しましても、1頭が新規エクセレントを獲得し、累計エクセレント頭数は255頭を数えます。これも日々の乳牛改良に対する情熱と努力が実を結んだ結果となりました。次年度以降も会員・参加者の酪農

経営に少しでも役立つような事業を展開できるよう、役員一同努力して参ります。

本年も乳牛改良と酪農経営を融合し、中春別の地に根差した「牛」を追い求めるべく、活動して参りますので組合員、農協、各関係機関のみなさまには変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。





ここ2カ年、暑い年が続いています。考えてみれば、道内ではもう10年以上、冷害らしい冷害がありません。次のシーズンはどうなるか分かりませんが、今後暑い年が増えるとした場合、地域のとうもろこし栽培をどうするのがよいか、考えてみました。

### ①2023年は根室管内各地で、RM100日前後の品種でも登熟できた

根室管内各地のアメダス地点でみると、とうもろこしの生育期間の単純積算気温は、どの地点も2,500℃前後となっていました。これは、RM95から100日近い品種でも登熟できたレベルです。



図 2023年の単純積算気温  
アメダスによる日平均気温の単純積算  
(積算期間：5/10～9/30)。

### ②今後はRM85～90日クラスが軸となる

別海の2024年の単純積算気温は2,400℃前後でした。RM90日クラス前後まで登熟できた可能性があります。一方、2010～22年の平均値では2,200℃弱で、RM80日クラスにとっても不十分でした。

未熟リスクと刈り遅れリスクを天秤にかけると、未熟の方が大きな損害につながりにくいですが、刈り遅れは理屈の上では回避可能です。

よって、根室管内で、温暖年を想定しつつ通常年も視野に入れるならば、刈り遅れに注意しつつ、品種はRM85～90日クラスを作付けるのがよいでしょう。ただし、マルチ栽培や、海霧が入るような特に冷涼な圃場では、別途推奨される品種を選びましょう。

刈り遅れを避けようとする、2番草と作業が競合することがあります。やむを得ず、とうもろこしを優先することも想定してください。



### ③留意すべきこと

根室管内のとうもろこし栽培には、常に一定のリスクがあることを受け入れる必要があります。リスク低減のポイントは、早期播種と適期収穫の励行です。

未熟	硝酸態窒素濃度の高止まり、乾物低収（廃汁ロスを含む）がありえる。年によっては避けられない。過度に遅い品種を使わない。早期播種に努める。
刈り遅れ	倒伏リスクや収穫・利用ロスが増大。黄熟期になり次第収穫できるよう準備を。（子実を潰して乳状物が出ない状態になったら、その100～200℃後が適期）
雑草・病害	高温年、あるいは栽培例の少ない品種では、予想外の雑草や病害が発生することがある。発生後の対処は困難だが、刈り遅れないことが1つの対応となる。



飼料の高騰が続き酪農経営が厳しい状況となっています。粗飼料の栄養価に応じてバランスのとれたエサを牛に与えることは、無駄な飼料費を削減することに繋がります。

粗飼料分析を活用した飼料給与を心がけ、飼料の変更や追加を行う場合は、必ず栄養バランスを確認しましょう。

## エサの組み合わせのイメージ

	エネルギー (TDN)が高い	エネルギー (TDN)が低い
粗タンパク質 (CP)が高い	濃厚飼料の給与量を減らす	糖・デンプンが高い飼料を給与
粗タンパク質 (CP)が低い	粗タンパク質を多く含む飼料を給与	濃厚飼料の給与量を増やす

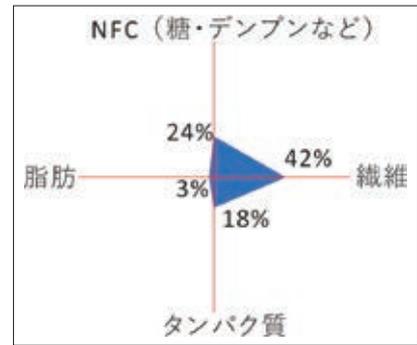


図1 ルーサン乾草

## 粗タンパク質 (CP) が低い場合

**【対策例】 タンパク質を多く含む飼料を給与。**

- 配合飼料の銘柄を変更(例: CP 18%→20%)
- ルーサン乾草、大豆粕など(図1 および2)

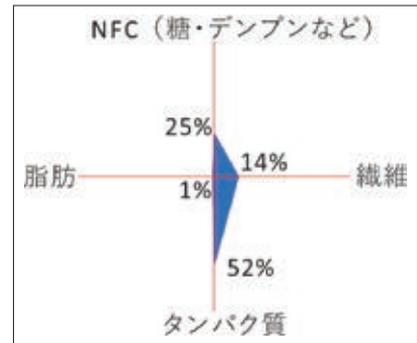


図2 大豆粕

## エネルギー (TDN) が低い場合

**【対策例】 糖・デンプンを多く含む飼料を給与。**

- 配合飼料の銘柄を変更(例 TDN 74%→76%)
- 圧偏コーン、ビートパルプなど(図3 および4)

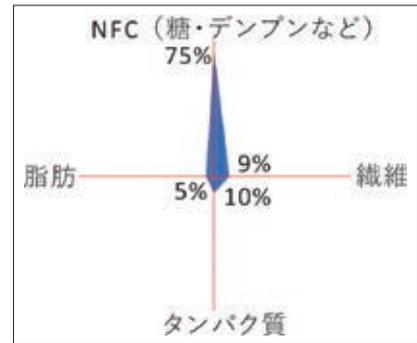


図3 圧偏コーン

## 中性デタージェント繊維 (NDF) が高すぎる場合

**【対策例】 消化性の高い中間飼料を給与したり、物理的に繊維の長さを短くする。**

- ビートパルプなどの中間飼料を給与。
- 牛は口幅より長い草が食べにくいので、ラップサイレージや乾草ロールを長いまま給与せず、ロールカッター等で短く切断して、少しでも食い込みを増やす(図5)



図5 牛の口幅

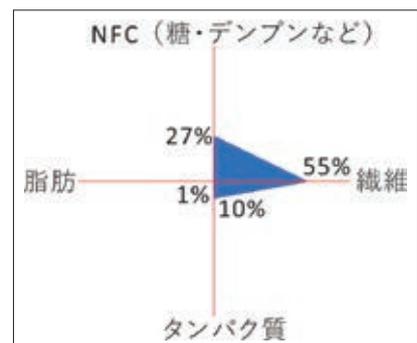


図4 ビートパルプ

# JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

## 第6回「東野ひでき北海道後援会の活動経過」について

過去の参議院選挙(比例代表)での危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが大切です。

北海道後援会では、JA役職員、組合員、青年部・女性部盟友、各連合会・関係機関など東野ひでき氏の応援の輪を広げていくために、農政学習会等を通じて「なかまづくり運動」を展開してきました。

### 「ひできのなかまづくり運動」

「ひ」…ひとりでも多く! 「で」…できることから! 「き」…きょうから始めよう!

各々が、応援を依頼する「なかま」を確実に2名以上特定し、さらに、その「なかま」1名につき、新たに2名以上の「なかま」を特定し、「なかま」を広げていきましょう。

令和6年3月29日に東野ひでき北海道後援会を設立して以降、主に以下の取り組みを実施しております。

- JA総会・総代会にて東野の動画映写や組織結集に向けた決議等を実施。
- JA・連合会にて推薦手続きを完了。
- 道連常勤役員・地区会長他によるJA等巡回。
- 東野による全国連・全国機関、都府県連合会・JA等巡回を実施。
- 東野による道内各連合会、関係機関、取引先、JA等巡回(励ます会)を実施。
- 農政学習会の実施。
- 各種資材の活用。  
(農政学習教材(資料・動画)、東野ひでき紹介動画、室内掲示用ポスター、リーフレット、運動推進ステッカー、名刺貼付用シールなど)
- JA広報誌での連載と北海道農政ジャーナルの発行。
- SNS(HP、LINE、Instagram、YouTube、Facebook)による活動報告。
- 青年部・女性部による東野ひでき親衛隊「動画大作戦」の実施。(毎月1回YouTube配信)



今後は、上記の取り組みに加え、屋外用政治活動用ポスターの掲示(野立て看板の設置)、東野出席のもと道内12地区の巡回等や、青年・女性組織の道・地区・単組段階での推薦手続き等を実施していきます。

農業・JAを取り巻く厳しい状況下において、JAグループ北海道の政策提案を実現し、組合員の営農と生活を守るためには政治力の強化が極めて重要であります。

農政学習運動等を通じて組織選挙の意義を共有し、引き続き「なかまづくり運動」を広げていきましょう!

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年まで連載いたします。次回(第7回)は、「業界を代表する候補者を選ぶことの重要性」について報告します。

東野ひでき公式  
LINEアカウントへの  
登録はこちらから



東野ひでき北海道後援会

# JAへの就職希望者100%就職 (令和5年度実績)

## 令和7年度 第3回学生募集

- 定員40名 ●男女共学 ●1カ年 ●寮完備(個室) ●通学制開始
- 受験資格:満27歳未満(令和6年4月1日現在) / 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日:令和7年2月2日(日) ●願書受付:令和7年1月6日(月)~1月24日(金)消印有効
- オープンキャンパス随時開催中

お問い合わせ  
資料請求

JAグループ職員養成校

# JAカレッジ

一般財団法人 北海道農業協同組合学校

〒069-0834 江別市文京台東町43-1

☎0120-918-417 JAカレッジ 検索



### ●【酪農経営科】委託実習・インターンシップ報告会！

11月19日(火)に令和6年度酪農経営科委託実習・インターンシップ報告会が行われ、酪農経営科の2・3年生は、委託実習・インターンシップの目標・目的・成果・後輩へのアドバイスなどをまとめ発表しました。



報告会の様子

報告を聞いた1年石橋大夢さん(中央中出身)は「委託実習もインターンシップも大変そうだけど、それぞれ面白そうだと思います。先輩方からのアドバイスにもあった“やりたいことを早めに決める。意味を持って実習に参加する”というのが、心に残ったので、来年の委託実習・インターンシップに向けて今から準備したいと思います。」と話してくれました。

報告会には、大変お忙しい中、町内外よりたくさんの方の参観をいただきましたことを感謝申し上げます。

### ●【酪農経営科】みどり戦略学生チャレンジの交流会

11月22日(金)にみどり戦略学生チャレンジ北海道ブロック大会オンライン交流会に酪農経営科3年佐藤麻由香さんと山口峻平さんが参加しました。本会はみどりの食料システム



参加者との記念撮影

戦略に基づいた活動を実践する機会として開催した交流会です。本校では、「低温乾燥気候を利用した子実用トウモロコシの調製方法に関する研究」というテーマでエントリーしました。参加した3年生佐藤麻由香さん(上風連中出身)は「今回の交流会を通してSDGsの目標達成や農業の課題解決に向けた、自分たちの考えや研究が環境をより良くする手助けになれば良いなと思いました。また、意見交換や質疑応答を行ったことでより深く研究内容を理解することができたとともに、他校の農業高校生と交流することができる貴重な経験をすることができました。」と話してくれました。



発表ポスター

### ●【専攻科】草地生産学特別講義

11月15日(月)、草地生産学Aの講義にて、酪農学園大学農食環境学群循環農学類教授の三枝 俊哉先生をお招きし、「草地の施肥管理～必要最低限の肥料資源で良質牧草を生産する～」というテーマで、専攻科学生と酪農経営科の生徒に講義をしていただき、実際に生徒たちが住む地域の土壌を用いて施肥設計を行いました。



講義の様子

学生からは「草地においてどのように肥料が利用されているのか理論を学ぶことができ、施肥設計のイメージができるようになりました。」と感想がありました。

### ●【専攻科】第1回酪農公開セミナー

11月25日(月)、第1回酪農公開セミナーを、別海町青少年プラザにて実施しました。本セミナーは、(株)石井獣医サポートサービス代表 十勝子牛研究会特別顧問の石井



セミナーの様子

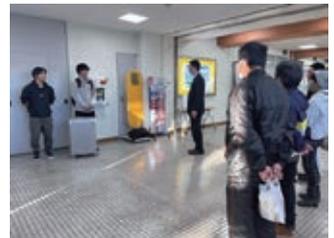
三都夫様を講師にお招きして、「酪農家を楽にする牛のためのお産」というテーマで講演をしていただき、町内外の酪農家や関係機関の多くの方々に聴講していただきました。講演では、「お産上手は経営上手!」であることを様々なデータで示していただき、強い索引助産が及ぼす影響や、実際の母牛や子牛に無理をかけない助産方法などの動画を見せていただきながら、教えていただきました。

講演を聴いた専攻科学生からは、「これまで自家で行っていた助産では、タイミングが早かったことがわかりました。今後は、助産のタイミングを見直し元気な子牛を育てていきたいです。」と感想がありました。

次回は2月17日(月)に、乳房炎対策に関する内容で、第2回酪農公開セミナーを予定しています。

### ●【専攻科】ニュージーランド研修帰着式

12月5日(木)、ニュージーランド研修帰着式を実施しました。2人とも、2カ月前とは顔つきが変わっており、充実した研修を行えた様子でした。参加した2年目学生の丹羽君は「海外で生活するのは大変なことも多かったのですが、沢山の人たちにサポートしてもらい、充実した研修を行うことができました。ニュージーランドで学んだことを、今後の仕事に活かしていきたいです。」と話してくれました。



帰着式の様子

本研修にご支援・ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

法人道民税  
事業税  
特別法人事業税  
(地方法人特別税)

エルタックス  
の申告は便利な **eLTAX** で!

eLTAX（エルタックス＝地方税の電子申告）には、次のようなメリットがありますので是非ご利用ください。

- インターネットで自宅やオフィスから申告ができます。
  - 複数の地方公共団体に対する申告をまとめてできます。
  - 利用者用ソフトで自動入力・自動計算など申告書作成をサポートします。
  - eLTAXに対応した市販の会計ソフトからの送信も可能です。
- eLTAXの詳しい情報については次をご覧ください。

●eLTAXホームページ

<https://www.eltax.lta.go.jp>

●北海道 総務部 財政局 税務課ホームページ

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/zim/dshinkoku/index.html>

**問い合わせ先** 北海道根室振興局 税務課 課税係 電話0153-24-5482(直通)

11月乳質乳価一覧表

		単 価 (円)	算 出 基 礎 (kg)	支払乳価 (円)	前年同期 (円)	差 (円)	
乳 脂 肪 分		1,410.153		59.47	45.65	13.82	
無 脂 乳 固 形 分		588.814		52.53	61.93	-9.40	
生 産 者 補 給 金		6.9558		6.96	6.77	0.19	
集 送 乳 調 整 金		2.0899		2.09	2.06	0.03	
補 給 金 合 計		9.0457		9.05	8.83	0.22	
乳 質 単 価	生 菌 数	ランク1	2	3.81	3.73	0.08	
		ランク2	0				
		ランク3	-3				
	体細胞数	ランク1	2				291,572,124.8
		ランク2	1				12,447,689.1
		ランク3	-2				3,056,643.5
合 計				124.86	120.14	4.72	

11月生乳受託実績表

項 目	単価(円)/(kg) %	
乳 脂 肪 分 ①	59円47銭	
無 脂 乳 固 形 分 ②	52円53銭	
生 産 者 補 給 金 ③	6円96銭	
集 送 乳 調 整 金 ④	2円09銭	
脂 肪 率	全道	4.22%
	農協	4.34%
無 脂 固 形 分 率	全道	8.92%
	農協	8.93%
成 分 乳 価 (①+②+③+④=⑤)	全道	121円05銭
	農協	122円88銭
乳 質 乳 価 ⑥	全道	3円810銭
	農協	3円826銭
乳 代 合 計 ⑤+⑥	全道	124円86銭
	農協	126円70銭
	差異	-1円84銭

# 謹賀新年

関連会社より新年のご挨拶

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします  
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます  
令和7年 元旦

 **有限会社 中春別マシンセンター**

代表取締役 望月英彦

別海町中春別南町3番地 TEL(0153)76-2117・FAX(0153)76-2278

旧年中は何かとお世話になりました  
本年もどうぞよろしくお願ひいたします  
令和7年 元旦

 **(有)ジェイエー・ワンブ**

代表取締役 望月英彦

別海町中春別南町3番地 TEL(0153)76-2861・FAX(0153)76-2865

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします  
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます  
令和7年 元旦



**訪問介護ステーション「あさひな」**

別海町中春別南町3番地 中春別農業協同組合2階 TEL・FAX(0153)76-3383

旧年中は何かとお世話になりました  
本年もどうぞよろしくお願ひいたします  
令和7年 元旦



**(株)なかしゅんべつ未来牧場**

代表取締役 望月英彦

**共和育成センター** 別海町中春別115-7 TEL(0153)76-2040・FAX(0153)76-2016  
**全酪連育成センター** 別海町中春別131-42 FAX(0153)76-1878  
**酪農研修センター** 別海町中春別170-1 TEL(0153)76-1230・FAX(0153)76-1232



十二支  
**巳年**  
の豆知識



蛇は、古くから豊穡神・天候神として信仰の対象とされてきました。脱皮をする蛇は「復活と再生」を連想し、不老長寿や強い生命力につながる縁起のいい動物と考えられています。また、蛇は餌を食べなくても生きながらえるため、「神の使い」として崇められてきました。全国各地に蛇を祀った神社もあり、七福神の一員である蓄財・芸能の女神「弁財天」は、蛇の型をした神として祀られています。「蛇の抜け殻を財布に入れておくと金運がアップする」と言われるのは、弁財天とのつながりがあることが理由のようです。

そして2025年は「乙巳（きのとみ）」です。乙巳の年は、多くの人にとって成長と結実の時期となる可能性が高いそうです。「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味します。この組み合わせは、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しています。年内には、早い人では具体的な成果が現れ始め、中には大きな結果を手にする人もいるかもしれません。しかし、全ての人と同じペースで結果を得られる訳ではありません。成長の速度は人それぞれであり、中には時間がかかる人もいます。そのため、2025年は辛抱強さが試される年にもなります。すぐに結果が出なくても、焦らず粘り強く取り組む姿勢が重要です。自分のペースを保ちながら着実に前進しましょう。